

平成26年12月15日
都道府県拠点病院緩和ケア部会

緩和ケア領域のPDCAサイクルの確保 【宮城県取り組み紹介】

宮城県がん診療連携協議会緩和ケア部会

部会長	小笠原鉄郎	宮城県立がんセンター
副部会長	中保利通	東北大学病院、東北大学大学院緩和医療学分野
副部会長	宮下光令	東北大学病院、東北大学大学院緩和ケア看護学分野

本日の内容

- 自施設の状況把握・評価、県内の情報共有
 - 宮城県のがん対策における緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する取り組み
- 県内の情報共有、相互評価
 - 宮城県における緩和ケア提供体制に関するピアレビュー（相互訪問）のパイロットテスト

指定要件

がん診療連携拠点病院

6 P D C Aサイクルの確保

- (1) 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じること。
- (2) これらの実施状況につき都道府県拠点病院を中心に都道府県内のがん診療連携拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報すること。

都道府県がん診療連携拠点病院

5 P D C Aサイクルの確保

- IIの6の(2)に規定する、都道府県内のがん診療連携拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院におけるP D C Aサイクルの確保について、中心となって情報共有と相互評価を行い、地域に対してわかりやすく広報すること。

東北大学病院

県立がんセンター

仙台医療センター

都道府県における
PDCAサイクル

- ・ 情報共有
- ・ 統一した指標による
情報公開

東北労災病院

Plan

Do

院内
PDCAサイク
ル
Check

Actio
n

大崎市民病院

石巻赤十字病院

東北薬科大学病院

指定要件への対応状況の読み合わせ

II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について		[-]：要件に該当なし						
1 診療体制		A病院	B病院	C病院	D病院	E病院	F病院	G病院
(1)診療機能								
⑤ 緩和ケアの提供体制								
ア	(2)の①のオ、カに規定する医師および(2)の②のク、キ、クに規定する看護師等を構成員とする緩和ケアチームを整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	○	○	○	○	○	○	○
	緩和ケアチームの組織上の位置づけについて別紙15に記載すること。	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙
イ	緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、がん診療に携わる全ての診療従事者により、以下の緩和ケアが提供される体制を整備する。							
i	がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来および病棟にて行っている。また、院内で一貫したスクリーニング手法を活用している。	×調整中	○	×準備中	△	×準備中	×調整中	△
ii	アに規定する緩和ケアチームと連携し、スクリーニングされたがん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛に対して、迅速かつ適切に緩和する体制を整備している。	○	○	○	○	○	○	○
	スクリーニングの項目、対象、方法、タイミング、スクリーニングした結果の確認者、スクリーニング結果の活用方法等について別紙16に記載すること。	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙
	スクリーニング後の緩和ケアチーム等の専門家への迅速な患者紹介の基準と手順について別紙17に記載すること。	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙	別紙
iii	医師から診断結果や病状を説明する際に、以下の体制を整備する。							
a	看護師や医療心理に携わる者等の同席を基本としている。ただし、患者とその家族等の希望に応じて同席者を調整している。	○	○	○	○	○	○	○
b	説明時には、初期治療内容のみならず長期的視野に立ち治療プロセス全体について十分なインフォームドコンセントに努めている。	△	△	△	△	△	△	△
c	必要に応じて看護師等によるカウンセリングを活用する等、安心して医療を受けられる体制を整備している。	○	△	△	○	×準備中	○	×
iv	医療用麻薬等の鎮痛薬の初回使用や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等による服薬指導を実施し、その際には自記式の服薬記録を整備活用することにより、外来治療中も医療用麻薬等の使用を自己管理できるよう指導している。	○	○	△	○	△	△	○
ウ	緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、アに規定する緩和ケアチームにより、以下の緩和ケアが提供される体制を整備する。							
i	週1回以上の頻度で、定期的に病棟ラウンド及びカンファレンスを行い、苦痛のスクリーニング及び症状緩和に努めている。なお、当該病棟ラウンド及びカンファレンスには必要に応じ主治医や病棟看護師等の参加を求めている。	×調整中	○	×準備中	○	×準備中	○	○
ii	がん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛に対して、必要に応じて初回処方緩和ケアチームで実施する等、院内の診療従事者と連携し迅速かつ適切に緩和する体制を整備している。	○	○	△	○	△	○	○

データはイメージです。

宮城県で現在はじめた取り組み（大学が研究として実施）

宮城県内の全ての拠点病院に協力依頼
現況報告を入手

各拠点病院に訪問
インタビュー（大学院生（看護師））

約1時間で現況報告をもとに
緩和ケアの実施状況、自施設の
状況把握・評価の方法などを確認

定期的な訪問
インタビューの実施
（6ヶ月毎など）

情報を大学でまとめ宮城県緩和ケア部会で報告

情報提供（成功例や困難例）
拠点病院間で統一化できる指標の検討？

自施設の状況把握・評価をする指標？

- 指定要件の合致状況？
- 緩和ケアチームの依頼数、依頼内容？
- 緩和ケア外来患者数？
- がん患者カウンセリング料算定数？
- 医療用麻薬処方量？
- スクリーニングの実施数、陽性数、対応数、転帰？

本日の内容

- 自施設の状況把握・評価、県内の情報共有
 - 宮城県のがん対策における緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する取り組み
- 県内の情報共有、相互評価
 - 宮城県における緩和ケア提供体制に関するピアレビュー（相互訪問）のパイロットテスト

【宮城県】

緩和ケア提供体制に関するピアレビュー

- 【目的】**
- ①県内の関係者の訪問評価によって、自施設では見出せない課題を明確化し、具体的な対応策を検討することで、施設内の緩和ケアの質を向上する。
 - ②県内の緩和ケアに係る情報の共有と、評価、分析を行うことで、県内の緩和ケアに関するPDCAサイクルを確保する。

【参加者】	対象施設緩和ケア担当者・地域連携担当者・院長・副院長・外科部長・等	15名
	宮城県拠点病院緩和ケア部会メンバー	10名
	県外専門家	5名
	事務局	4名

【宮城県】

緩和ケア提供体制に関するピアレビュー

時間	時間	スケジュール
事前	120分	調査メンバー事前打合せ
調査	20分	I. スケジュール・実施方法説明
	50分	II. 対象施設の緩和ケア提供体制の紹介
	80分	III. 施設内見学・ヒアリング
	60分	IV. 質疑応答・意見交換
	10分	V. まとめ（フィードバック）
事後	1カ月後	レビュー結果の報告
	2カ月後	対象施設改善策の立案
	1年後	1年後の評価

ピアレビューの課題

- レビューを受ける施設の負担
- 緩和ケアチーム以外のスタッフへの周知、スタッフの恐れ
- 訪問チームの構成、負担、スキル
- 結果の施設へのフィードバック方法

まとめ

- 宮城県では緩和ケア部会を中心に活動をはじめた。
- 各病院の情報を集約化し、どのように自施設の状況把握・評価をするのが適切かを検討している。
- 研究班と共同でピアレビュー（相互訪問）を試行。
- まだはじめたばかりで、今後、宮城県にとって最適な方法について継続的に検討。